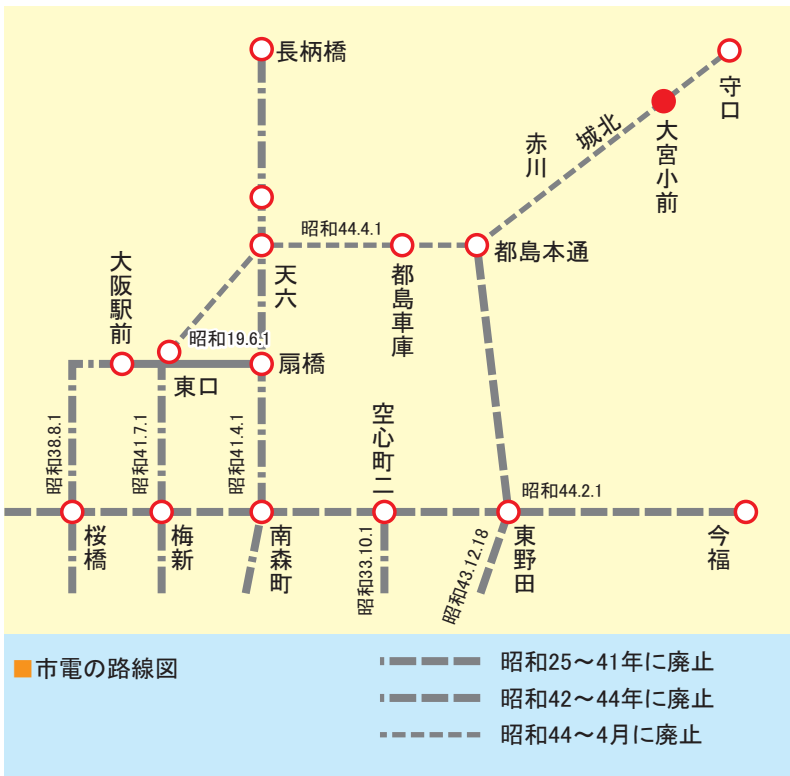


市電 しでん



市電(「旭区史」より)

大阪市内を中心に乗物は、人力車、巡航船、市電、乗合自動車(バス)、地下鉄の順で登場した。市電が初めて市内を走ったのは明治36年(1903年)で、西区花園橋から築港までで、料金は4銭(一区1銭)であった。また同年、新世界で勧業博覧会が開かれたため、梅田から会場の天王寺までバスが運行された。地下鉄は1933年(昭和8年)に梅田・心齋橋間で開通し、以後どんどん路線を延ばし、今では市内の交通機関の主役になっている。



遠方に市電の姿が見える城北筋の風景(昭和32年(1957年)頃)
上)現在の中宮三丁目辺りから北を見る
下)現在の城北公園付近から南を見る
(写真2点とも:中村英祐)



昭和32年(1957年)頃の国道1号
(写真:中村英祐)

大宮土地区画整理竣工記念

大正14年(1925年)に西成郡・東成郡が大阪市に編入される前の両郡、即ち大阪市に隣接する両郡の町村は、急激な都市化が進んでいた。そうした中で、健全な都市開発を目指して、大正末期から昭和10年(1935年)代にかけて土地の区画整理が多数行われた。旭区内でも10を超える組合が作られた。その一つ、大宮土地区画整理組合は、昭和4年(1929年)12月に設立され、工事期間は昭和6年(1931年)3月から16年(1941年)5月の10年間で、約5.5万坪の区画整理を行い、昭和21年(1946年)4月1日同組合を解散している。

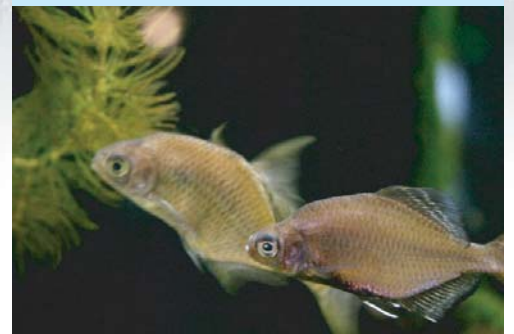
～市電よもやま話

旭区の赤川の地主に集まって貰いました。三丁目辺りの地主はこの辺りで区画整理しても家は建たないではないか。当時、市電は片町から都島本通で天六に曲がっていた。赤川三丁目から都島本通までは3km以上ある。京阪の各駅もそれ以上に遠く故に区画整理しても何もならないと云う。そこで市電が通れる広い道を作ることになり、組合が自発的に市電が通れる道を作ることにした。そこで一計、車庫を出来るだけ遠くに造ることにし、守口土地区画整理組合の中央に車庫の敷地を大阪市に寄贈することになった。城北、大宮、榎並之荘、董の荘の組合長は寺西圓次郎氏。(「大阪建設史夜話」より)

ワンド わんど



■ ワンドと菅原城北大橋



■ イタセンパラ

平成18年12月に、ワンドで生態系調査が行われましたが、イタセンパラの姿は無く、ブルーギルが多く見られました。

明治時代、船が安全に往来できるように「ケレップ水制」(水の流れを制御するための構造物)という工事が行われた。しかし、時代とともに船の利用が減り、整備されなくなった水制に土砂が堆積し、本流と隔離され、小さな池が連なって「ワンド」という独特の地形ができた。自然に根付いたヨシなどに囲まれた、生物にとっては貴重な憩いの場となっている。また、淀川水系ではすでに絶滅したと思われていたイタセンパラが発見され、国の天然記念物に指定された。



■ 淀川のワンドとその周辺

～昔の淀川では

- 大宮小学校にはプールが無かったので、「天然プール」と呼んでいた淀川の水泳場に友達と泳ぎに行きました。
- タニシを漁師が網ですくっている風景を覚えています。
- タニシの他に、コイ、フナ、タナゴ、シマドジョウ、シジミなどをバケツ一杯に捕ることができました。